

## 土砂災害を自分事ととらえること

神山中学校一年 なかみなみ れい 中南 礼

「線状降水帯が発生、警戒レベル5の緊急安全確保が出されました！こちらの地域では、すでに災害が発生しているか、発生する危険があります。直ちに安全な場所で命を守る行動をとってください！」

毎年、テレビニュースでこのようにアナウンサーが呼びかけているのを耳にします。

土砂災害には、がけ崩れ、土石流、地すべりなどがあります。土砂災害の原因には、梅雨の長雨や台風、地震など日本は特に傾斜が急な山が多いため、災害が発生しやすい国土環境にあるようです。土砂災害の発生件数も、年間千五百件ほど発生しており、ほとんどの都道府県で土砂災害が発生しています。特に注意しなければならないのが、線状降水帯による異常な集中豪雨で、突然発生し、バケツをひっくり返したような雨が狭い地域に集中して長時間降り続きます。今年も七月に山形県酒田市で集中豪雨による土石流が発生した映像をみて、突然家が流される恐怖を目の当たりにしました。過去には、西日本豪雨、九州豪雨などで多くの地域に大変な被害をもたらした原因が、これだとされています。

ぼくが住む徳島県神山町は、吉野川の支流鮎喰川の上流域にある町で全面積の約八三%が山地であり、その中央を鮎喰川が流れるとても美しい町です。山が見せてくれる四季の景色がぼくは大好きです。家は幹線道路から少し上った山の集落にあります。山の斜面に家が点在し、その中心を鮎喰川につながる谷川が流れ、棚田がとてもきれいな集落です。

ぼくは毎年夏になると、谷川の上流の決まったところで川遊びをします。そこは砂防ダムがあり、過去に川の上流から流されてきた土砂を食い止め、集落を守ってくれた跡が残っています。父が子どもの頃は、砂防ダムの壁も高く残っていたそうですが、今はダムの上すれすれまで大きな石や砂利でいっぱいになっています。

ぼくは、町から配布された土砂災害ハザードマップを初めて見て、とても驚いたことを今でも覚えています。なぜかというと、町のほとんどがハザードマップの土砂災害警戒区域や危険区域に染められていたからです。そして、ぼくの家や集落も赤く染められた崩落警戒区域などの中に入っていました。ぼくが毎日歩く通学路にも危険な場所が多くあることを兄から教えてもらい、大雨やその後の登下校時は、山の斜面のそばを通るときに注意しながら歩くよう言われてきました。今のところ大きな土砂災害はありませんが、大雨が降るたびにきれいなはずの谷川が濁り、樹木が流れて

いるのを見ると、とても怖くなります。実は、町のなかでも土砂崩れが起き、国道が通行止めになり、集落が孤立することがほぼ毎年あるということを家族から聞きました。土砂災害は他人事ではないと考えさせられました。

大規模災害が増えたことで、テレビや携帯電話ではすぐにアラートが流れるようになり、令和三年六月からは、「顕著な大雨に関する情報」として線状降水帯発生情報が発表されることになりましたが、今年五月からは、さらに発生の可能性が高いと予測された半日以上前に、地域をしほり警戒情報を流すようになったそうです。半日後に、線状降水帯が発生すると予測することで、実際に発生するしないではなく、準備する時間ができたのではないのでしょうか。テレビでも被害にあった人が、「逃げようと思ったけど間に合わなかった。」と話していることがよくあります。過去には、線状降水帯発生情報から三十分もたたずに河川が氾濫、約五分後に土砂崩れが発生したケースもあったようです。ぼくも同じですが、きっと「まさか自分のところで起きるとは」と自分のことを考えることができなかったので避難が遅れてしまったのではないかと思います。

ぼくの暮らす地域は、土砂災害の警戒区域だけではなく、南海トラフ巨大地震発生予測地域でもあります。もし、集中豪雨と巨大地震が重なったらと考えるだけで、恐ろしくなります。ぼくは、町からの広報誌やハザードマップを確認し、土砂災害が起きたときなどについて家族で話し合うことをしています。例えば、地域の避難所の場所を確認したり、登下校中に土砂崩れが起きたらどこに行くかなどを決めたりしています。

まずは、自分の住む地域のことを知ることが重要です。そして、自分だけでなく家族や地域の大切な人たちの命を守るために何ができるのか考えないといけません。

ぼくは、あのテレビから聞こえるアラートを聞くたびに、「じぶんごと」として考え、災害への備えを確認します。そして、山地災害を防いだり、被害を少なくしたりするために中学生としてできることをしっかりと考えていきます。